

第36回連携病院長会議

令和6年3月2日(土)、ANAクラウンプラザホテル松山にて、対面開催しました。当院と人事交流がある約100施設の病院長が参加し、愛媛県の医療体制について情報共有等を行いました。



第三回シミュリンピック大会の開催

令和6年3月11日(月)～3月15日(金)、医学科5年生を対象に、第三回シミュリンピック大会が開催されました。大会では、感染症対策及び集中治療室における救急患者の対応等についてチームを組んで競い合い、最も優れたチームを学生投票にて選出し、功績を称え合いました。



病院長補佐の紹介

医療の質・働き方改善担当: 城戸輝仁
災害担当: 佐藤格夫
医療DX担当: 木村映善
感染症担当: 田内久道



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)

情報発信中!



杉山隆病院長がパーソナリティを務めるラジオ番組
Dr.杉ちゃんの「ウィークエンドクリニック」
(2021年4月3日スタート、毎週土曜17:30～FM愛媛)



愛媛大学医学部附属病院
ホームページ



医学部及び附属病院
Instagram
(2021年2月1日開設)

医事課インターンシップ開催

令和6年3月7日(木)、河原外語観光・製菓専門学校 医療・総合事務科の学生6名が医事課インターンシップに参加しました。参加した学生からは、「医療事務の現場を目の当たりにして、自身の将来像がイメージできた」等の感想をいただきました。



臨床研修修了証授与式

令和6年3月14日(木)、当院の臨床研修プログラムを修了した研修医27名に修了証が授与されました。研修医は、熊木センター長からの「今後はプロフェッショナルとしての自覚をもち、医師人生を謳歌してほしい」という言葉で送り出されました。



ライトアップinグリーン運動開催

令和6年3月12日(火)～3月17日(日)



第46回医学祭

令和6年5月18日～5月19日

編集後記

本号では、病院長として2期目を迎えた杉山先生と、新体制で新たに副病院長に就任された先生を特集しています。病院長は「高度医療の提供」「感染症や災害対応の強化」「病院再開発計画の推進」を診療面で重視し、教育面では「シミュレーション教育の充実」、研究面では「バイオバンクの発展」に注力しています。副病院長の先生方はこれらの目標を支えるべく抜擢されました。それぞれの想いが込められたコメントをぜひご覧ください。



広報委員会委員長
熊木天児

今月の表紙

病院長 杉山 隆
総合臨床研修センター長 熊木天児
研修医 新人看護師

いつまでも地域・患者と共に歩む ～愛大病院が目指す改革像～

- 01 | 情熱を持って、現場・地域と共に改善を意識し、改革を進める
- 02 | 学部と病院、大学と地域のシームレスな環境整備
- 03 | 手術全体を見直し、安全で合理的な新しい手術体制の構築
- 04 | 今ある資源を最大限活用し、将来の医療を設計する
- 05 | ゴールのない医療安全にチームとして取り組み続ける



情熱を持って、現場・地域と共に改善を意識し、改革を進める

附属病院長 杉山 隆

■ 就任1期目のコロナ禍は連携と協力で乗り切る

1期目の病院長を拝命直後、瞬間に専用病床であるICU2は満床になりました。院内の関連部署の強力な協力の下、関連病院に重症状態が落ち着いた患者さんの受け入れを依頼しました。また、医師会・行政とも連携し、県民の皆さんへの感染予防対策について積極的に情報発信を行いました。このときの連携等の経験は、今後の感染症・大規模災害対策に活きたと確信しています。

■ コロナ禍を経て大学病院としての機能をブラッシュアップ

コロナ禍の経験は新興・再興感染症への対応だけでなく、診療全体の効率アップに繋がりました。重症患者さんへの対応は、専用病床に配属されている看護師さんだけでは足りず、一般病棟から多くの看護師さんが支援しました。病院の看護師さんの絶対数は同じですので、通常の診療や手術の調整を図ることにより特別な診療運用を行いました。このような背景の下、病院の職員が一致団結し、急を要する疾患や悪性腫瘍の治療を含む高度医療を必要とする患者さんに注力することで、県内の診療体制の役割分担を図りました。

■ 県民から信頼され、更に愛される病院へ

2期目では、診療面は「高度医療の提供」「新興・再興感染症・災害時の体制構築」「病院再開発整備計画の推進」、教育面は「シミュレーション教育のさらなる充実」、研究面は「バイオバンクの発展」を職員の皆さんのご支援の下、一緒に進めて参ります。患者さんにとって安全、かつ質が高く、病院で働くスタッフにとっても働きやすさ・働きがい共存する、更に愛される大学病院を実現します。



PROFILE

すぎやまたかし◎1988年関西医科大学卒業。三重大学、東北大学を経て2015年から愛媛大学大学院医学系研究科産婦人科学教授。2021年4月から附属病院長に就任。専門は周産期医学。連携を図る過程で、多くの人と出会うことが楽しみ。



当院について詳しく知りたい方は、毎週土曜日17時半からのラジオ番組をお聞きください！

学部と病院、大学と地域のシームレスな環境整備

総務・教育担当 副病院長 竹中克斗

私は総務・教育担当の副病院長を務めています。今回は、医学部と附属病院の教育担当を兼任しています。医学部と附属病院の両方の組織を担当することで、課題解決の相乗効果と迅速な行動が可能。また、地域医療も担う大学病院では、医師不足は長年の課題です。学生教育、臨床実習時の教育、研修医の育成、専門医の育成、それぞれの段階で県外に出て行くこともあります。各部署と協力して一貫した教育を行い、県内就職率の向上に努めます。また、総務担当として、病院長の代理を務めさせて頂くことも増えました。担当以外の課題にも積極的に関わり、少しずつ改善を図り前に進めたいと考えています。



PROFILE

たけなかかつ◎1991年九州大学医学部卒業、同医学部第一内科入局。1997年岡山大学第二内科助手、2000年オンタリオガンセンター細胞分子学でポストドクフェローとなり、2015年九州大学病院血液・腫瘍内科助教。2018年5月より本学血液・免疫・感染症内科学教授。

手術全体を見直し、安全で合理的な新しい手術体制の構築

診療担当 副病院長 雑賀隆史

私は診療担当と同時に手術部長も兼任しています。患者さんは手術が必要だと聞くと、手術を待つ時間にも大きなストレスがかかります。もちろん医療従事者も同じです。このストレスのかかる手術の待機時間の縮小を考えています。手術に関わる人的・空間的・時間的キャパシティを劇的に増やすことは難しいですが、手術全体の現状を整理し、無駄を省き、効率を上げ合理的な稼働を目指します。そのためには大学病院の役割である教育・研究に支障がないよう、各診療科間の協力が欠かせません。手術に関わる各診療科の先生方と連携し、大学病院として必要な医療・手術を早期提供できるようにしていきます。



PROFILE

さいかたかし◎1988年岡山大学医学部卒業、医学博士取得。広島市民病院泌尿器科主任部長を経て2016年6月より本学泌尿器科学教授。専門は尿路上皮癌腫瘍学、腹腔鏡手術、機能温存手術。趣味は歴史小説と映画鑑賞。

今ある資源を最大限活用し、将来の医療を設計する

経営・再開発担当 副病院長 山口 修

「経営と再開発は両輪である」という病院長の考えによって、2032年度に完成する新病棟と病院全体の経営に携わります。現状を見ながら先のことを考える「経営」、将来にできあがるものを今考える「再開発」には両方の視座が必要です。今大学病院が持つ医療資源、人的・物的・技術的資源を最大限活用することが経営に寄与し、大学病院だから提供できる先端医療が可能となると考えています。新病棟は、完成後から数十年間は医療現場として使われます。ロボット支援手術も増えるでしょう。新病棟の詳細をワーキンググループで考えています。愛媛の医療に欠かせない病棟作りの一歩に微力ながら貢献したいです。



PROFILE

やまぐちおさむ◎1995年大阪大学医学部卒業、医学博士取得。大阪大学医学部附属病院、国立大阪病院、大阪警察病院での臨床研修などを経て、2018年4月から現職。趣味は読書、サイクリング。

ゴールのない医療安全にチームとして取り組み続ける

医療安全・危機対策担当 副病院長 鈴木 純

次々と新しくなる治療法や医療機器など日進月歩の医療現場。それに伴って誘起される新たなインシデントに対応し、患者さんはもちろん医療従事者の安全を守ることが私の役割です。病院長は以前から医療安全に関心が高く、先代の先生方もとてもいいシステムを作ってくださっています。今ある長所を大事にしながら、多くの課題に医療安全管理部のスタッフ一丸となって改善を続けていきます。今はコロナ禍を経て常時マスク着用となり、表情や感情が読み取りづらく、細かなニュアンスが伝わりにくくなっています。コミュニケーションエラーが要因となる医療事故を減らせるよう、チームワークトレーニングも継続していきます。



PROFILE

すずきじゅん◎1996年愛媛大学医学部卒業、医学博士取得。同附属病院、愛媛県立中央病院での臨床研修、米国ロチェスター大学心臓血管研究所博士研究員、愛媛大学大学院医学系研究科循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講師などを経て、2024年4月より現職。専門は循環器内科。趣味はアウトドア。